

聖書研究祈禱会

「祈り続けたダニエル」

ダニエル書 6 章 10 節

2026 年 2 月 25 日

松並徹治

I. 導入:ダニエルの歩み

1. 捕囚の民としての出発

- ・ 南ユダ王国滅亡後、若者としてバビロンへ捕囚
- ・ 祖国・神殿を失い、異文化の中で生きる試練

2. 信仰に忠実な歩み

- ・ 王の食事を拒み神への忠実さを守る
- ・ 神が知恵と洞察を与えられた
- ・ 夢の解き明かしを通して王に仕える者となる

3. 帝国が変わっても変わらない信仰

- ・ バビロン滅亡 → ダレイオス治下のメディア・ペルシアへ
- ・ 高官として用いられ続けた
- ・ 理由:「すぐれた霊が宿っていた」(6:3)

4. 妬みと陰謀

- ・ 王以外に祈る者を禁ずる法令
- ・ 違反者は獅子の穴へ

II. ダニエルの信仰(6:10)

1. 禁令を知って家に帰った

- ・ 危険を理解していた
- ・ 弁明や策略ではなく神のもとへ
- ・ 信仰者はまず神の前に立つ

2. 窓はエルサレムの方角に開いていた

- ・ 神殿と神の臨在の象徴
- ・ 捕囚の地でも約束への希望を保つ
- ・ 心の向きは状況ではなく神へ

3. 以前からしていたように日に三度ひざまずき

- ・ 危機だから祈ったのではない
- ・ 日々の祈りの習慣
- ・ 日常の祈りが非常時の信仰を支える

4. 神の前に感謝の祈りをささげていた

- ・ 死の危険の中でも感謝
- ・ 神の真実と守りを覚えていた
- ・ 祈りの中心は願いより神への感謝

Ⅲ. 神の守り(6章)

1. 獅子の穴に投げ込まれる

- 祈り続けた結果としての試練

2. 神の介入

- 御使いが獅子の口を閉ざす

3. 王の問いとダニエルの証し

- 「神は救うことができたか」
- 神が守られたとの証言

◆ 教訓

- 祈りは試練を避ける保証ではない
- 試練の中で神の臨在と守りを体験する